

「躊躇していたのです。でも農業改良普及指導センターの方が、直売所を行うに必要な資金計画や図面まで画いてくれたのです。今の成功は、そのお陰です。」これは、佐渡の農産物及び農産加工品の直売者が集まる「佐渡まるごとネットワーク」メンバー20名ほどが集まった研修会の席上での発言です。

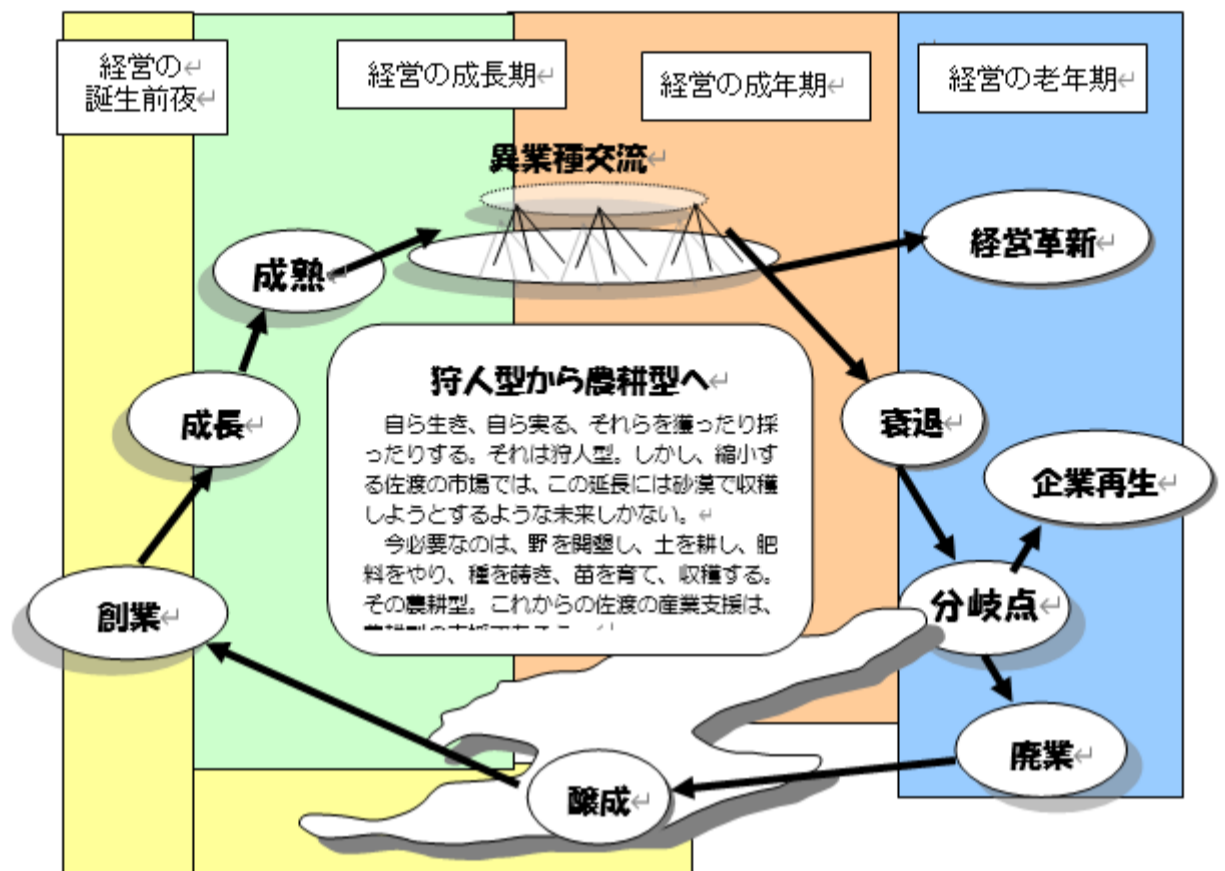
「この農業経営の複合化・多角化の手引きは、これから農業経営の発展と安定をねらう皆様のために作りました。他に配布するものではありません。」これは、30名ほどが出席したスーパー経営発展講座での同指導センターの説明でした。

「3年前に着手し、今年初めて販売しました。」これは、同指導センターの園芸開発プロジェクトに参加している30名ほどの検討会の生産者からの報告です。

私は、この各集まりに、佐渡地産地消推進部会長の立場から、交流と講演のため同席していました。聞いていて、「欲しい支援機能は既に佐渡にあった」という思いで嬉しくなったものです。

地産地消推進部会の委員の多くは商工業者です。商工業側からの地産地消として、ヒアリング等で訪れる際に珍しがられたり期待されたりしたものです。この部会内では、生産者が啓発啓蒙され、仲間を呼びかけ、生産体制をつくるまでの難しさが常に指摘されていました。地産地消が産業規模で展開されるには、孵化器みたいな支援機能が佐渡に必要なことを論議していました。図表①が、その概観です。

図表①



ですから、その支援体制が既に佐渡にあったことに驚き、今更ながら、農林水産業と商工業の縦割り体制の中で、他を知らないことの反省をしたものです。

●支援機関の連携会議

この指導センターとのつながりは次のようにして生まれました。前回の連載で、「プロデューサー又はコーディネーターが配置できれば成果は出る。でも現状で組織をつくり、人員配することは難しい。そこで、各支援可能組織の機能見直しと連携強化をはかりたい」といった主旨を述べました。今年に入り早速実践し、支援機関による会議を開催しました。支援機関とは、意識啓発に始まり、生産、加工、販売までの過程で、当事者となる個人、グループ、そして法人等に対して、必要なノウハウその他の支援を行うことを直接目的として活動している組織です。佐渡においては、地域振興局農林水産部の各課、佐渡市の農林水産関係各課の中に計7組織ほどありました。そしてもう一つ、私が所属する商工会も、実は個々の事業者の個別支援を毎年延べ1万件以上、講習会などの集団での支援を五十回前後している支援組織であります。

1月末に行った支援会議では、特別事業など一過性なものではなく、日常業務として課せられている支援機能の相互理解、必要なときに必要な連絡協調できる相互関係の形成に重きをおきました。

●交流商談会の開催

その支援機関会議の最後に、1ヵ月後に「生産者を売り手とし、商工業者を買手とする商談会を当部会で計画している。ぜひ助言がほしい」と求めたのが、同指導センターとつながる契機でした。

後日、「売り手の生産者は、私たちが集める。買い手を商工会で集めてほしい」と提案があり、各々の得意分野を分担しての共催事業が誕生することになりました。

おりしも3ヵ月前、農林水産省、経済産業省では「農商工連携の促進による地域経済活性化の取り組み」について施策を打ち出していました。その佐渡版ともいえる、「売り手と買い手を大掛かりにお見合いさせる」という佐渡初めての出会いの場、交流商談会は、こうして唐突に意外性をもって訪れたのであります。

催しには、売り手37名、買い手95名が参加。参加者の感想は、「大変よかった」「よかった」が77.6%、今後の参加については、「参加する」が72.4%でありました。この数値は、今後の展開について、「改善すれば更に成果はださせる」という十分な手がかりとなるものです。

専門コンサルによる評価も紹介しておきます。

『昨日は新潟県佐渡市に行きました。～略～「生産者と事業者の交流商談会」は初めての試みですが売る側の生産者は佐渡の農水産業者、買う側の事業者は佐渡の小売店・ホテル・旅館・民宿・飲食店です。この企画は素晴らしいです。～略～地元同士での交流商談会です。私の持論である地元で採れた農水産物を地元で使用する、販売するしくみづくりです。これは成功します。これが地域の生き残る唯一の道です。』(※1)

●佐渡版・挑戦者たち

冒頭で述べたように、3つの集会で、八十名余のチャレンジする生産者に会いました。また、商工業分野でも、約10社の中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画承認企業があり、そこまでいかなくとも、新たな試みをする事業者は、百の単位で存在するでしょう。この動きを加速するために、地産地消推進部会が報告書で「当面の着手事項」として示したものが図表②です。

その中にあるように、チャレンジャーを紹介していくサイトを計画。頑張るお互いを「見える化」することで刺激しあい、いつの日にか、佐渡におけるあの「プロジェクトX～挑戦者たち～」が多数出てくることを目指します。

終わりに.....

「数値で診る佐渡」は、今回が最終回です。

「思いっきり遠くを見ることでわかる今がある」「経営では、必ず数値目標に置き換える場面があるが、佐渡を(株)佐渡ヶ島と捉え数値の裏づけをとってみると違う現実がある」「定量的にハードルの高さを共有すれば、必ずクリアするヒトが出てくる」

「数値で診る佐渡」とは、これらが背景となっているものです。

長い間、どうもありがとうございました。

※ 1 抜粋ではなく全体をご覧になるサイト

<http://keystaff.seesaa.net/article/87321321.html>

図表②

